



平成 21 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス
(コード番号8889 大証ヘラクレス)
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩次
本 社 所 在 東京都中央区京橋一丁目1番5号
問 合 せ 先 常務取締役 石川 雅浩
T E L 0 3 - 3 2 3 1 - 8 0 2 0

当社子会社(株式会社システムソフト)の業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社システムソフト(JASDAQコード7527)が、平成21年9月期第2四半期累計期間及び通期業績予想について、平成20年12月2日付「平成20年9月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

なお、当社の第2四半期連結累計期間及び通期連結業績への影響については現在集計中であり、今後業績予想の修正が必要と判断される場合には速やかにお知らせいたします。

以 上

<別添資料>

株式会社システムソフトの開示資料

「平成21年9月期第2四半期累計期間(連結・個別)及び通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」



平成 21 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社システムソフト
代表者名 代表取締役社長 吉尾 春 樹
(J A S D A Q ・ コード 7 5 2 7)
問合せ先 取締役執行役員管理部長 緒 方 友 一
T E L 0 9 2 - 7 1 4 - 6 2 3 6

平成 21 年 9 月期第 2 四半期累計期間（連結・個別）及び通期（連結・個別）
業績予想の修正に関するお知らせ

平成 21 年 9 月期（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）の業績予想について、平成 20 年 12 月 2 日付当社「平成 20 年 9 月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 9 月期第 2 四半期累計期間業績予想の修正
（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

(1) 連結業績予想の修正

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期 純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|-----------------------------------|-------|------|-------|------------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 800 | 28 | 18 | 10 | 0.30 |
| 今回修正 (B) | 690 | 35 | 37 | 33 | 1.02 |
| 増減額 (B - A) | △110 | 7 | 19 | 23 | — |
| 増減率 (%) | △13.8 | 25.0 | 105.6 | 230.0 | — |
| (ご参考) 前中間期実績 (平成 20 年 9 月期中間期) | 872 | △18 | △18 | △453 | △13.63 |

(2) 個別業績予想の修正

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期 純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|-----------------------------------|------|-------|-------|------------|-----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 650 | 18 | 16 | 10 | 0.30 |
| 今回修正 (B) | 594 | 40 | 44 | 41 | 1.26 |
| 増減額 (B - A) | △56 | 22 | 28 | 31 | — |
| 増減率 (%) | △8.6 | 122.2 | 175.0 | 310.0 | — |
| (ご参考) 前中間期実績 (平成 20 年 9 月期中間期) | 804 | 122 | 123 | △391 | △11.77 |

(3) 修正の理由

当第2四半期におきましては、世界的な金融危機が深刻化する中、企業のIT投資計画の縮小や延期がすすみ、売上高は当初予想を下回りましたが、システム開発事業における原価の圧縮や、不動産ポータル事業における営業体制の見直し等により、営業利益・経常利益・四半期純利益については当初予想を上回る見込みとなりました。

(売上高)

システム開発事業におきましては、親会社 株式会社アパマンショップホールディングスのグループ全体に係る基幹システムの開発が前期において一段落したことに伴い、当期は近年注力してきた不動産分野のシステム開発から、旧来より得意としている金融・生損保・通信関連分野へと重点分野を再シフトして、事業を進めました。通信関連のお客様においては受注・売上とも比較的順調に推移しましたが、金融・生損保関連のお客様においては景況悪化の影響を受け、システム開発の規模の縮小や受注金額の引下げ要請などが発生いたしました。

不動産ポータル事業におきましては、不動産ポータルサイト「CatchUp（キャッチアップ）」により分譲マンションを中心とした広告収入による事業を展開しておりますが、この事業分野においては、前期からの不動産不況を背景に分譲マンションマーケットが一段と冷え込み、厳しい状況が続いております。このような状況を受け、お客様（マンションデベロッパー）の広告予算全体が圧縮される傾向にあり、広告掲載件数の減少や掲載費の値下げ要請が続きました。

以上の結果、売上高は連結で690百万円（当初予想比：110百万円減）、個別で594百万円（当初予想比：56百万円減）と、それぞれ当初予想を下回る見込みであります。

(営業利益、経常利益及び四半期純利益)

受注案件の縮小に伴い原価が減少したことに加え、システム開発事業におきましては、外注費を削減し、より効率的な開発体制を構築するなど、原価の圧縮に努めました。また、不動産ポータル事業におきましては、営業体制を見直して効率化をすすめ、原価・経費の圧縮に努めました。

以上の結果、営業利益は連結で35百万円（当初予想比：7百万円増）、個別で40百万円（当初予想比：22百万円増）となる見込みであります。

経常利益は、資金の貸付による受取利息6百万円等により、連結で37百万円（当初予想比：19百万円増）、個別で44百万円（当初予想比：28百万円増）となる見込みであります。

四半期純利益は連結で33百万円（当初予想比：23百万円増）、個別で41百万円（当初予想比：31百万円増）となる見込みであります。

2. 平成21年9月期通期業績予想の修正（平成20年10月1日～平成21年9月30日）

(1) 連結業績予想の修正

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|-------|------|------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想（A） | 1,600 | 48 | 38 | 30 | 0.90 |
| 今回修正（B） | 1,400 | 48 | 38 | 30 | 0.90 |
| 増減額（B－A） | △200 | 0 | 0 | 0 | — |
| 増減率（％） | △12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — |
| （ご参考）前期実績 （平成20年9月期） | 1,770 | 23 | 28 | △411 | △12.36 |

(2) 個別業績予想の修正

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------|-------|------|------|-------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 1,400 | 40 | 38 | 32 | 0.96 |
| 今回修正 (B) | 1,250 | 40 | 38 | 32 | 0.96 |
| 増減額 (B - A) | △150 | 0 | 0 | 0 | — |
| 増減率 (%) | △10.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成20年9月期) | 1,645 | 236 | 245 | △830 | △24.95 |

(3) 修正の理由

第3四半期から第4四半期にかけても景況の回復は厳しい見込みであり、当社グループが属する情報サービス産業におきましても、ユーザー企業のIT投資は引き続き抑制基調で推移するものと予想されることから、売上高は連結で1,400百万円(当初予想比:200百万円減)、個別で1,250百万円(当初予想比:150百万円減)と、それぞれ下方修正いたします。

営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、引き続き原価の圧縮と経費の削減に努めることで当初予想を達成できるものと見込んでおり、前回予想を据え置くことといたします。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上